

1 業務の実施方針

「めざす新庁舎」の実現に向けて

■南九州市の「めざす新庁舎」を皆様との対話を通して実現

- 私たちの設計業務方針は「皆様との対話を重視し、皆様がめざす新庁舎を納得した形で実現する」ことです。
- 多くの方々が関わる庁舎施設設計では「検討体制の確立」と関係者の「意見集約・調整」が重要となります。これらを行う存在として、計画のスタートラインから常に皆様と共に事業を進めていきます。
- 検討委員会（市職員や地域関係者）・市民・議会の三者と、設計事務所が相互理解を深めながら協働できる検討体制を提案します。市民をはじめ庁舎に関わる全ての方々の想い・要望を計画に反映します。

1. 施設の特徴・事業経緯の把握

新庁舎の位置づけ、基本計画等の内容を十分に理解することから設計をスタート。

新庁舎整備の基本理念
安心・安全で快適に利用できる庁舎

1. 防災拠点としての機能
2. 市民サービスの向上
3. すべての人にやさしい
4. シンプルかつ機能性と経済性

2. ご要望の反映+αを提案

関係方々からのご要望を引き出し、整理して設計へ反映。ノウハウを活かし+αを提案。

ご意見・ご要望
対面
+α提案

3. 提案型でプロジェクトを主導

メリット・デメリットを示した分かりやすい資料を提示。複数案比較検討で最適解を導出。

複数案の提示

A案	B案
動線○ 動線△	動線○ 動線△
経済性○ 経済性△	経済性○ 経済性△
工期○ 工期△	工期○ 工期△

4. 具体的イメージの共有

ビジュアルで分かりやすく検討しやすい資料を提示。具体的イメージを共有し設計を推進。

対面
+α提案

2 設計チームの特徴

総合力を結集した全社的支援体制

■公共施設・庁舎建築の設計実績豊富なチーム構成

- 公共施設・庁舎建築の設計実績を積んだ管理技術者・総合設計主任が多角的かつ柔軟にプロジェクトをリードします。

■安全性・信頼性・経済性の高い施設づくり

- 構造・電気・機械の各技術者は公的災害拠点施設の豊富な実績を活かし、経済的で安全性が高い施設を実現します。

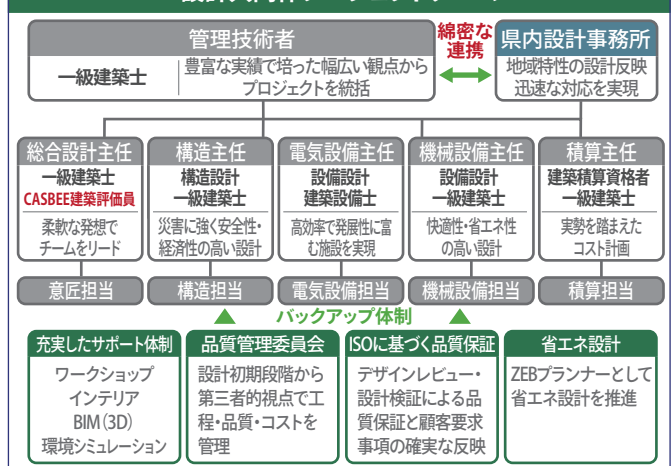
■高品質を保证するバックアップ体制

- 社内デザインレビュー、設計検証に加え、品質管理委員会による第三者的視点での工程・品質・コストの徹底管理で、高品質かつ満足度の高い施設を実現します。



綿密な対話 相互理解

設計共同体プロジェクトチーム



3 設計業務の進め方

早期課題解決、継続的コスト管理で手戻り防止

■これまでの経過と課題を把握

- 新庁舎の基本構想、基本計画などを踏まえ、これまでの検討経過を十分に理解のうえ、設計をスタートします。
- 敷地状況や建物調査に加え、運用面の聞き取り調査を実施。利用状況を把握し、設計要件を整理します。

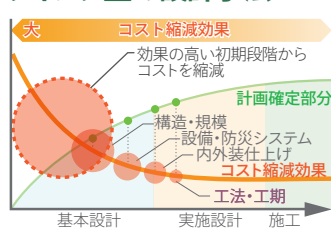
■皆さまの想いや要望を引き出す打合せ

- 検討委員会との打合せを月2回程度行い、FACE to FACEの密な打合せで要望を確実に設計へと反映します。

■手戻りのない設計手法

設計の進め方 フロントローディング型の設計手法

- 建物の骨格やコスト・品質の大部分が決まる基本設計初期段階を重視。フロントローディング型の設計手法で検討課題を早期に抽出・解決し、高品質な施設を実現します。



コスト管理 基本設計時に2回の工事費概算を算出

- 基本設計時に施設規模から算出する大概算、建物形態・仕様を反映させた概算の計2回、工事費を算出します。
- ご要望に対しては常に費用対効果を検証のうえ方針を決定。機能と費用のベストバランスを追求します。
- コスト増を伴う要望に対しては、コストアップ分を相殺するVE案を提示して予算超過を防止します。

■ワークショップによる市民との協働

- 想いや要望、地域の個性を反映した庁舎とするため、基本設計から工事段階に至るまで、継続的にワークショップを実施します。
- 多目的スペースや市民交流スペースをワークショップの重点検討テーマとし、市民の想いやアイデアを盛り込んだ空間とします。

■設計プロセスの情報発信をサポート

- ワークショップのほか、市報による周知・レビュー・市民説明会・パブリックコメントなど、設計プロセスの情報発信・共有をサポートします。





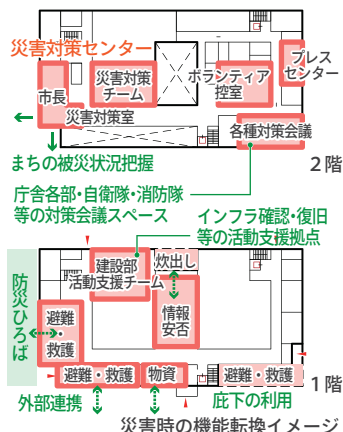
1 基本方針1:地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎

市民の心の拠り所となる災害に強い庁舎

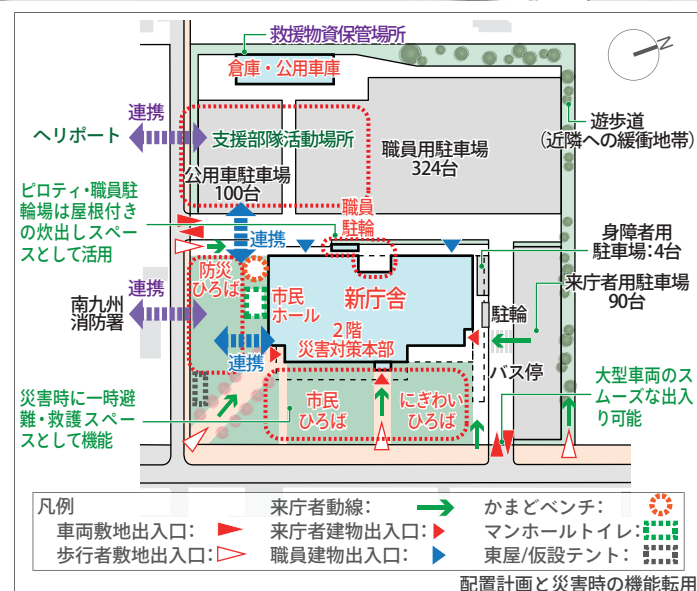
- 災害時に備えた建物・駐車場・公園の配置
- 災害時の連携が不可欠な南九州消防署側に公用車駐車場(災害時に「フラットな支援スペース」として機能)を設けます。防災ひろばは建物内の市民ホールとともに市民の「トリアージスペース」、「一時避難スペース」として機能します。
 - 公用車駐車場・職員駐車場には災害支援時の妨げになるタイヤ止めを設けません。
 - 防災ひろばに「かまどベンチ」や「マンホールトイレ」、「仮設テントに転用できる東屋」等を設け、日常的に防災に触れる場として整備します。



- 災害時の迅速な機能転換
- 2階に災害対策室と市長関連諸室を集約配置。災害時の迅速な対応が可能な災害対策センターを形成します。
 - 1階待合ホールには非常用電源を整備。「災害情報・安否確認」や「救護治療・救援物資保管場所」として利用可能となります。
 - 市民ホールは「一時避難スペース」として、外部の炊出しなどと連携します。
 - 職員駐輪場とピロティは「炊出し場」として給排水設備を予め用意します。



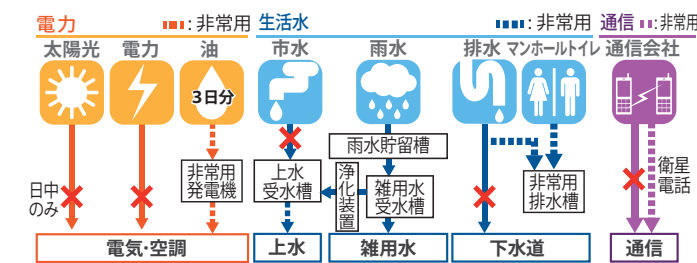
- 様々な災害に強い堅牢で安全な庁舎
- 新庁舎は巨大地震時に機能する堅固な耐震構造を採用し、災害対策本部としての機能を継続させます。
 - 地震対策として耐震天井の採用、設備機器の落下対策など、仕上材や二次部材の耐震対策を徹底します。
 - 火災対策として構造材は火災に強い耐火構造を採用します。防火・防煙区画、内装不燃化を適切に行い、火災時の建物内延焼を防止します。
 - 台風・豪雨対策として降雨量200mm/hに耐える排水計画とします。ガラス面は飛散防止フィルムを施し、ガラス破片の落下を防止します。



2 基本方針1:地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎

いかなるときも機能するノンダウン庁舎

- 3日以上持続可能な庁舎を実現
- 3日以上持続可能な庁舎を実現するため、災害時のライフライン遮断に備え、独自のエネルギー供給フローにより庁舎機能の維持が可能な設備システムを構築します。
 - 自然エネルギーの活用と非常用電源発電機の設置によりインフラ供給が途絶えた際も機能継続が可能な計画とします。
 - 非常用発電機は3日分以上の燃料を備蓄します。
 - 排水は非常用排水槽に3日分を貯留可能な計画とします。
 - 屋上に設けるソーラーパネルにより20KW以上の発電が可能。一時避難者の通信機器への充電など、停電時の電力サポートに活用できます。
 - BCP(事業継続計画)の視点からも主要設備機器は複数台を設置し、相互バックアップを可能にします。

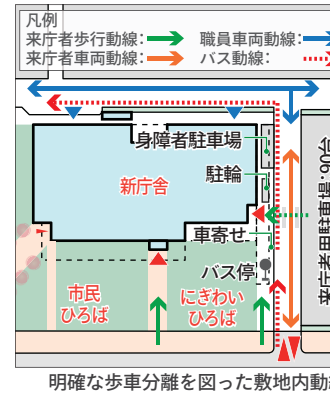


1 基本方針2:すべての人にやさしい庁舎

来庁者にやさしい分かりやすい庁舎

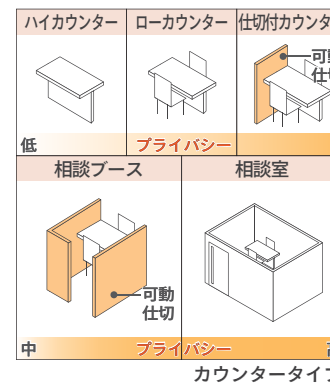
来庁者にやさしいアプローチ動線・駐車場計画

- 安全確保のため明確な歩車分離を実現。南北・東西方向にメイン車路を設け、車での来庁者をシンプルに導く計画です。
- 建物北側にバス停や車寄せ・身障者駐車場・駐輪場を集約します。
- 前面道路に正対してメイン玄関を設け、歩行者のアクセスを明確にします。



誰もが安心して利用できる庁舎

- 総合案内カウンターは、エントランスホールの主出入口と駐車場側からのサブ出入口の双方から分かりやすい位置に整備します。
- 来庁者の窓口対応や相談内容に柔軟に対応できる様々なタイプのカウンターや相談室を整備します。



2 基本方針2:すべての人にやさしい庁舎

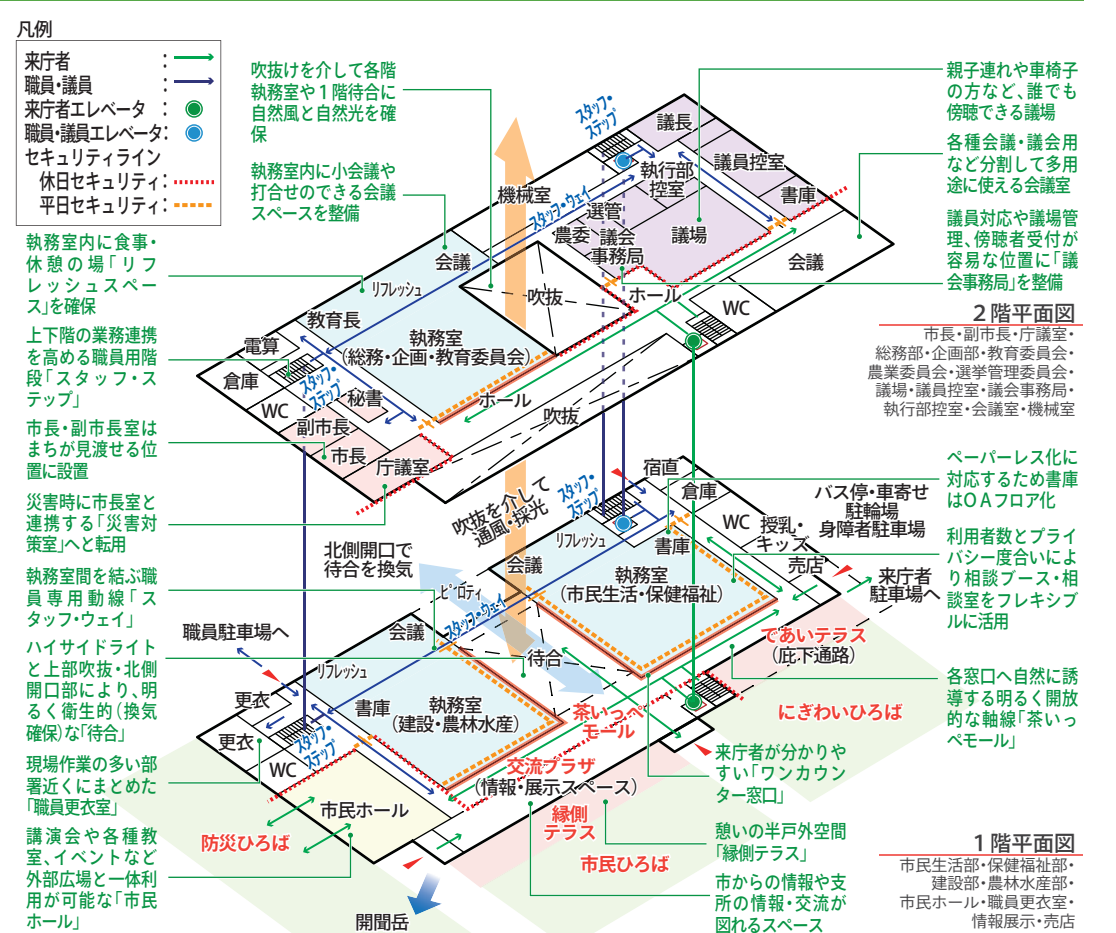
利用しやすく働きやすい、市民と職員をやさしく繋ぐ庁舎

ワンカウンター窓口

- 1・2階ともに執務空間はオープンスペースとし、視認性の高い「ワンカウンター窓口」とします。
- メイン動線の「茶いっぺモール」と待合ホールに面して窓口を設け、初めての来庁者でも分かりやすい計画とします。
- 利用者が複数の窓口を利用する際も案内が容易で、短い動線で移動ができる計画とします。

業務連携を高め執務環境を向上させる

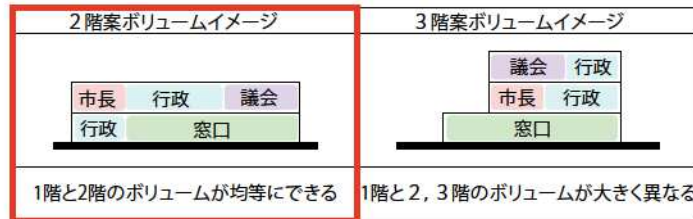
- 執務室は分散化せず「セミワンルームオフィス」とし、効率的で連携が容易な計画とします。関連性の強い部署でまとめた執務室の間に吹抜け空間(待合)を挿入することで、十分な自然換気と自然光を確保できます。



1 基本方針3 機能的・経済的なコンパクト庁舎 機能的・経済的なコンパクトな庁舎

経済性と利便性を両立した合理的な低層建物

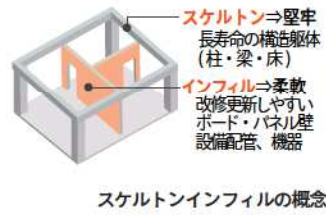
- 窓口のワンストップ化のために1階は十分な面積を確保します。2階に行政・議会機能を集約し、縦移動の少ないわかりやすく明確な施設構成とします。
- 各階で面積ボリュームが均等でバランスの良い2階建てを採用し、機能的にも建設コスト的にも無駄の少ない庁舎を実現します。
- 低層化及びL型の窓口配置により動線の短いコンパクトな庁舎を実現します。



2 基本方針3 機能的・経済的なコンパクト庁舎 コスト縮減への配慮

合理的な施設計画による建設コストの削減

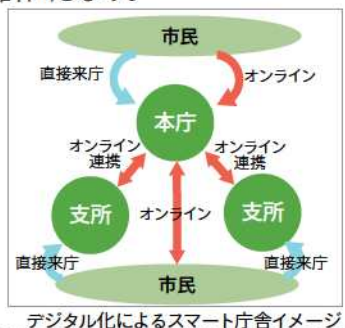
- シンプルで整形な建物形状とすることで、外壁面積の最小化や構造フレームの合理化、基礎面積の削減など建設コスト削減を図ります。
- 柱スパンの均一化とロングスパン化により、机の配置が行いやすい機能的な執務空間にするとともに、無駄の少ない合理的な構造計画を実現します。
- 工場生産品・規格品の採用や部材の均一化により現場作業を縮減し、工期・建設コストを縮減します。
- 建物を低層とすることで、工期短縮により工事費を縮減します。
- 構造体「スケルトン」と変化に伴い改修変更を行う間仕切り壁や設備機器等の「インフィル」に分け、庁舎機能の持続性を確保します。



3 基本方針3 機能的・経済的なコンパクト庁舎 すべての人にやさしいスマート庁舎の実現

デジタル化によるスマート庁舎計画

- 本庁に機能を集約することにより懸念される市民サービスの低下を防ぐためにデジタル化によるネットワークの構築を想定します。
- オンライン窓口サービスによる「行かなくてよい市役所」の実現に対応できる施設を計画します。
- 自宅からのオンライン手続きに加え各支所からのオンライン手続きを併用して、高齢者も利用できるサービスを実現します。
- 情報漏洩の防止、サーバー機能のバックアップなどのセキュリティの強化を図ります。



低層建物に最適で合理的な構造計画

- 地震動に対する低層建築の優位性(軽量・軽微な揺れ)を考慮し、経済性・工期など総合的に優れている耐震構造を採用します。
- S造・RC造・PC造などの構造方式については、建設コストや納期等の動向を十分に分析して、建設時に最適なものを選択します。

構造形式	耐震構造	制振構造	免震構造
低層建築への適正	○ 適している	△ 中高層建築向き	△ 軽量建物は工夫要
地震時の構造被害	○ 無被害～軽微	○ 無被害～軽微	○ 無被害～軽微
地震時の揺れへの効果	○ 低層のため軽微	○ 低層のため効果小	○ 効果大
建設費	○ 1.0	△ 1.2	△ 1.3
工期	○ ±0	○ ±0	△ +2.0ヶ月

日々の保守・修繕を容易にする施設計画

- 修繕・更新工事の少ない建材や機器を選定し、継続的な負担を抑制します。
- 資格者不要又は定期点検の簡易な機器を採用し、施設管理の負担を軽減します。
- ワックスがけが不要な床材等メンテナンスフリーな材料を選定します。

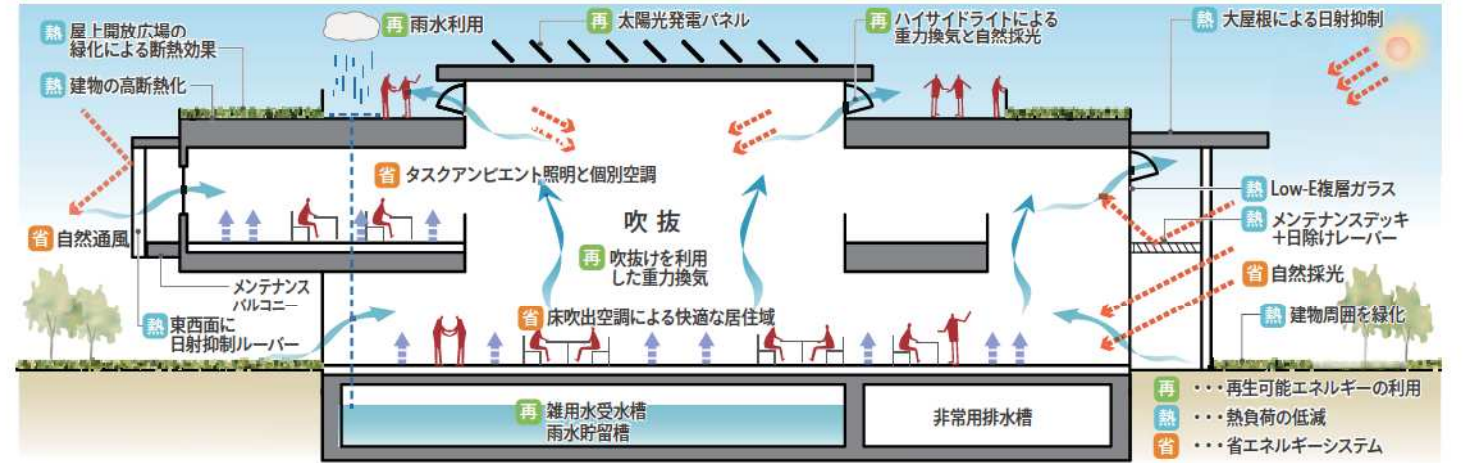
項目	保守・修繕のしやすい計画
長寿命・高耐久性	・長寿命LED照明の全面採用 ・耐久性の高い配管を採用 ・耐久性の高い仕上材
建築計画の工夫	・汎用品・規格品機器の採用 ・維持・保全・修繕のためのメンテナンススペースや動線の確保
設備計画の工夫	・点検や管理に手間のかからないヒートポンプ空調方式の採用 ・将来設備増設スペースの確保 ・省メンテナンス機器の採用
清掃性の配慮	・ワックスフリー床材の採用 ・拭き掃除可能な壁紙の採用 ・清掃しやすいディテール

最適な設備計画による光熱水費の削減

- 省エネ設計手法を駆使し、標準的な施設と比較して光熱水費を約43% (年1,244円/㎡・年)削減します。

光熱水費の削減	標準施設	電気	ガス・油
標準施設	水道	電気	ガス・油
計画施設	水道	電気	ガス・油
削減率	約2,874円/㎡・年	約1,630円/㎡・年	約43.0%
年間削減額	約2,874円/㎡・年	約1,630円/㎡・年	年間約930万円の削減

1 基本方針4 環境にやさしい庁舎 環境に配慮した省エネルギー計画



大空間の執務室・ホールに最適な環境づくり

- 奥行き大きな空間となる執務室・ホールの環境を均等に保つため吹抜けを設けて、採光・換気が庁舎全体に行き届く環境を作ります。
- 中央部、南東部の吹き抜けからの採光により、建物中央部も明るい環境を保つ計画をします。
- 吹き抜け空間を利用した重力換気により風通しの良い庁舎を計画します。

自然エネルギーの積極的活用

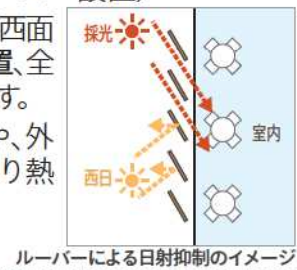
- 2階建により屋上を大きく確保し、20kw以上の太陽光発電パネルを設置します。
- 雨量の多い鹿児島県の気候を利用し、雨水をピット内雨水貯留槽に貯めて、敷地内の広い緑地の散水に利用し、維持管理費用の低減を図ります。
- 建物周辺は保水性のある緑地や芝ブロック舗装などを配置し、建物周辺温度の上昇を抑え空調負荷の低減を図ります。

効率的なエネルギー手法の採用

- 全館LED照明を採用し、消費電力を低減します。照度センサーと在籍センサー・タイマー制御による照明を採用し、消し忘れを防止します。
- 全般照明と局部照明を併用するタスクアンビエント方式で消費電力を低減します。
- 大空間でも居住域を効率的に空調できる床吹出空調及び個別空調方式を採用します。
- 空調機器、ファンなどは高効率機器を採用。換気は全熱交換ユニットによる排熱利用により空調負荷を低減します。

熱負荷を抑えた一年中心地よい室内空間

- 広場を見渡せる南・東面の吹抜け開口部には、大屋根を設けて日差しを抑制します。(2階レベルにメンテナンスデッキ兼用の水平ルーバー設置)
- Low-E複層ガラスの採用や、東・西面開口部に日除けルーバーの設置、全周に庇やバルコニーを配置します。
- 緑化を併用した屋上外断熱や、外壁面の断熱性能の向上により熱負荷を抑制します。



2 基本方針4 環境にやさしい庁舎 ZEB実現へのロードマップ

省エネ技術を駆使し、ZEB Readyを実現

- 省エネ設計により一次エネルギー削減率50%でZEB Ready(50%以上)を実現します。
- 更なるZEB実現のために、1次エネルギー削減に加え、創エネルギーとして太陽光発電(22Kw)を設け、省エネルギー率52.6%を達成します。
- ZEBプランナー登録事務所として、設計の各フェーズで省エネルギー率をチェック。運用まで視野に入れたZEB化を確実に遂行します。

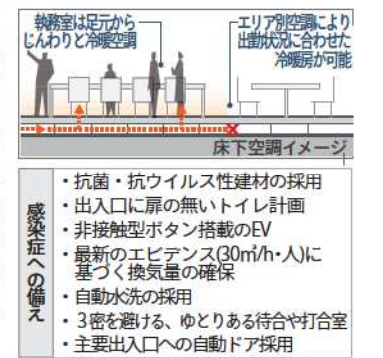
ZEB Ready 取得の手法	削減率
外皮性能	・アルミ樹脂複合サッシの採用 ・Low-E 複層ガラスの採用 ・屋根・外壁断熱材の厚み変更 ・水平庇の採用 149 MJ/㎡・年
空調換気	・高効率熱源機器の採用 ・外気冷暖房付全熱交換器の採用 ・CO2 濃度制御による換気量の増減 ・高効率モーターの採用 ・温度制御による風量制御 442 MJ/㎡・年
照明	・LED 照明の採用 ・タイムスケジュール制御の採用 ・明るさ検知制御の採用 ・初期照度制御の採用 212 MJ/㎡・年
給湯	・自動水栓の採用 ・バルブに高断熱保温を採用 36 MJ/㎡・年
創エネ	・太陽光発電設備(22Kw)の設置 29 MJ/㎡・年
建物総エネルギー削減率	724 MJ/㎡・年



3 基本方針4 環境にやさしい庁舎 アフターコロナに対応した環境計画

アフターコロナに対応した「新しい生活様式」を実現する庁舎づくり

- 自然換気を併用して換気の良い環境を作ります。
- 気流の発生しない床吹出空調の採用により空気の攪拌を抑え、清浄性を保ちつつスタッフの作業環境の向上と居住空間空調による省エネルギー化を図ります。



1 基本方針5: まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎 麓集落の景観を建物配置に活かす

- 外部から内部へつながる豊かな空間づくりを参考に
- 南九州市に点在する麓集落は風土に根ざした豊かな景観を創出しています。景観に配慮した石垣・生垣で境界を創り、美しい庭園、縁側空間を経て建物内へとつながる空間構成を庁舎計画にも反映し、新しい街並み景観の拠点とします。



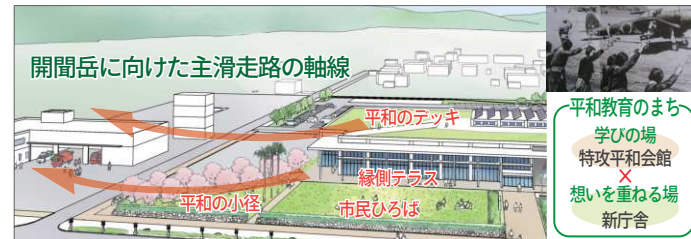
2 基本方針5: まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎 「ひと」と「まち」がにつながる交流の場

- 旧3町が交流し、市民の誇りを育む場を創出
- フラットタイプの議場は議会時以外は開放し、交流の場として利用可能。災害時にも多機能に対応します。
- エントランスホールに面して情報・展示コーナーである「交流プラザ」を整備。情報発信スペースとして新たな市民交流の場を提供します。
- 「茶いっぺモール」・「交流プラザ」と一体利用できる「市民ホール」は多目的なホールとして旧3町の市民を引き寄せる場として様々な活動・イベントに利用可能。利用時以外は開放エリアとし、隣接する「防災ひろば」・「市民ひろば」と一緒に活用できます。



3 基本方針5: まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎 平和を願う地に建つ庁舎として

- 知覧飛行場滑走帯に建つ平和のシンボルとして
- 「防災ひろば」と「市民ひろば」の間に設けた「平和の小径」と屋上テラスの「平和のデッキ」は、かつての主滑走帯を想起させる開聞岳に向けた軸線です。特攻隊が八重桜で出征を見送られた様に、桜並木で平和へと想いを馳せる小径です。
- 知覧特攻平和会館で先の戦争の歴史を学び、主滑走路であった庁舎の地で先人に想いを重ねる。平和への想いをより強く感じてもらえる、南九州市にしか行えない「平和学習の場」となります。



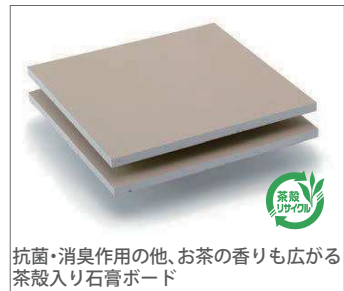
4 基本方針5: まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎 地域と共につくる新庁舎

- 地域の材料や技術、産業を利用した内外装計画
- 地元産木材や川辺高田石など、南九州市の材料を内装に活用し、市民に親しまれる空間を創出します。
- 地元産材は内装の天井や壁、受付カウンター、ベンチ等に採用します。
- 加工のしやすい川辺高田石は内部の床材やアクセントとなる壁材に採用し、風土の特色を市民と共有できる空間づくりを行います。
- 川辺仏壇の精巧で高い技術を内部デザインに採用し、地域の特色を表現します。



■知覧茶を活かした庁舎

- 外構には知覧茶の木を植樹し、茶摘み体験や茶を用いた調理体験など、「知覧茶ワークショップ」のイベント等を開催できる庁舎とします。
- 優れた抗菌・消臭作用を持つお茶の特性を活かした、茶殻入り石膏ボードを採用します。通常廃棄される茶殻を用いたリサイクル品でSDGsの理念を市民に啓蒙し、南九州市らしさを発信できるインテリア計画です。



5 基本方針5: まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎 親しみを感じられる地域の公園として

- まちの景観に寄与する
- メイン道路と庁舎建物の間に既存のイチョウ並木と調和する緑豊かな広場を設け、まちの景観に緑のつながりを創ります。
- 広場や遊歩道にはお茶の木、イヌマキやサツキ、梅の木など武家屋敷庭園の景観要素となっている樹種を植樹。南九州市らしい外構計画とします。



■地域の歴史・風土に馴染む外構デザイン

- 南九州市を構成する旧3町にはそれぞれ麓集落があり、その石垣には「切石積み」が多いという特色があります。地域の特色を生かし、外構石垣は「切石積み」とします。



1 基本方針6: 本業務を進める上で有効な独自提案 地域と共につくる新庁舎

- 市民の声をかたちに
- 基本設計を進める上で特に「市民の声」を重要視します。継続的なワークショップを実施し、市民の想いやアイデアを盛り込みます。
- 市民だけでなく市職員ともワークショップを実施し、働きやすい職場づくりや市民サービスの向上を目指して、積極的に対話の場を設けます。



2 基本方針6: 本業務を進める上で有効な独自提案 地域特性を知り、未来へつなげる

■まちの歴史を知る

- 南九州市には知覧・川辺・穎娃のそれぞれに麓集落があります。各麓の特性など、まちの歴史を知り、庁舎計画に落とし込むことで新しいまちの歴史を創ると考えます。



■地域の環境を知り、設計に反映する

- 建設地の年間気温や降水量、卓越風など、建物を取り巻く環境データを庁舎づくりに反映させます。
- 桜島の降灰対策として、維持管理のしやすい陸屋根の採用やメンテナンスデッキの整備、要所への水栓設置などを行います。

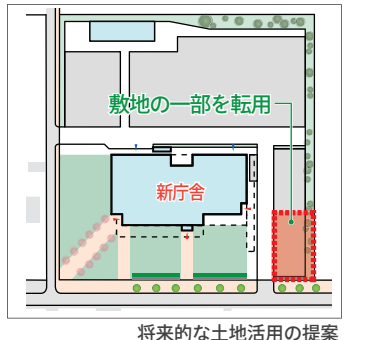
3 基本方針6: 本業務を進める上で有効な独自提案 防災につながる緑あふれる交流の場

- 日常と災害時の垣根をなくす「フェーズフリー」
- 日常と災害時のフェーズ(局面)対応を区分しない、フェーズフリーの理念で防災庁舎設計を進めます。
- 自由に利用できる庁舎・ひろばで市民の防災意識を高め、防災が日常の一部となる場を整備します。
- 緑環境の充実が防災につながる
- 緑あふれる環境を創出し、市民と行政との「地域防災協働」につながる、豊かな交流を生みだします。



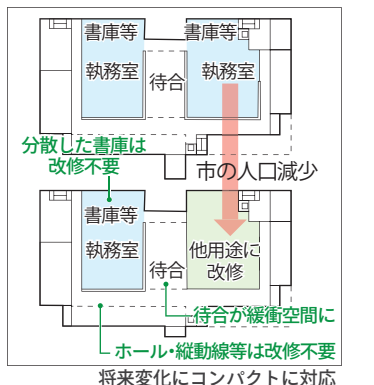
4 基本方針6: 本業務を進める上で有効な独自提案 まちに寄り添い積極的な提案を

- 長期的な視点に立った設計
- 将来的な市の人口減少や業務の効率化に伴い、必要な市職員数や庁舎スペースも変化していきます。将来のまちや業務、通信技術等の変化に対応できる設計提案を行います。
- 敷地・建物配置 敷地の一部を転用できる
- 人口減少に伴い庁舎利用者が減少した際、敷地の一部を他の公共施設建設地とし、総合的な市民サービスを充実させたり、民間企業に貸与・売却して収入を得るなど、変化に対応し、将来へのポテンシャルを残した建物配置とします。



■執務室の計画 執務室のブロック化で変化に対応

- 1階執務室を2ブロックに分けることで、将来予想される市の人口減少に伴う、執務室のダウンサイジングに対応します。
- 1ブロックを他の施設に改修可能とすることで、将来変化にコンパクトに対応します。(子育て支援施設、その他民間医療施設と連携した施設 等)



■室内レイアウト 執務室内のモジュール化

- 将来的な職員数や部署構成の変化に対するレイアウト変更が容易なよう、モジュールを用いた平面計画を行います。
- 天井の照明や空調、仕上げ材の割付などを執務室内で統一し、基本的な空間単位を基に新たに必要な空間を構成できる計画とします。

